

解講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	保健体育Ⅱ		
担当教員	山岸 英雄		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	2単位	時間数	30(15)時間
学習目標	<p>医療従事者として健全な心身を育成することを目的とする。 就職試験の体力検査項目について主体的に取り組むことができる。 就職試験の体力検査項目について基準を超えることができる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎トレーニング① 2. 基礎トレーニング② 3. 基礎トレーニング③ 4. 基礎トレーニング④ 5. 基礎トレーニング⑤ 6. 基礎トレーニング⑥ 7. 基礎トレーニング⑦ 8. まとめ 効果測定 		
教科書			
参考書			
評価方法	<p>効果測定の得点結果を主体に・出席状況・受講態度等により総合的に評価する。 効果測定は消防職員採用試験での基準値とする。</p>		
備考	<p>授業中の、居眠り・私語・服装の乱れ等も評価の対象とする。 体調不良等を理由とした頻回の見学・中断は欠席とする。(3見学で1欠席)</p>		
備考	<p>授業中の、居眠り・私語・服装の乱れ等も評価の対象とする。 体調不良等を理由とした頻回の見学・中断は欠席とする。(3見学で1欠席)</p>		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	基礎分野特論		
担当教員	金本 直登		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	26単位	時間数	150(30)時間
学習目標	1年次に履修した自然科学及び人文・社会科学について、基礎から応用へと理解を深めることを目標とする。		
授業計画	1. 判断推理 ① 2. 判断推理 ② 3. 判断推理 ③ 4. 判断推理 ④ 5. 判断推理 ⑤ 6. 判断推理 ⑥ 7. 判断す璃 ⑦ 8. 判断推理 ⑧ 9. 判断推理 ⑨ 10. 判断推理 ⑩ 11. 判断推理 ⑪ 12. 判断推理 ⑫ 13. 判断推理 ⑬ 14. 判断推理 ⑭ 15 まとめ 期末試験		
教科書	速読英単語(風見寛:Z会) よくわかる数的推理(田辺勉:実務教育出版) よくわかる判断推理(田辺勉:実務教育出版)		
参考書			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期																														
科目名	救急症候・病態生理学Ⅳ																																
担当教員	大治 広美																																
学年	2年	学科	救急救命																														
単位数	2単位	時間数	30時間																														
学習目標	病院前救護の現場で頻回に対応する症候について理解し説明することができる。																																
授業計画	<table border="0"> <tr><td>1 頭痛</td><td>492-496</td></tr> <tr><td>2 痙攣</td><td>497-502</td></tr> <tr><td>3 運動麻痺</td><td>503-506</td></tr> <tr><td>4 めまい</td><td>507-510</td></tr> <tr><td>5 喀血</td><td>516-518</td></tr> <tr><td>6 まとめ①</td><td></td></tr> <tr><td>7 胸痛</td><td>522-525</td></tr> <tr><td>8 動悸</td><td>526-528</td></tr> <tr><td>9 腹痛</td><td>529-533</td></tr> <tr><td>10. まとめ②</td><td></td></tr> <tr><td>11. 吐血・下血</td><td>534-536</td></tr> <tr><td>12. 腰部痛・背部痛</td><td>537-539</td></tr> <tr><td>13. 体温上昇</td><td>540-544</td></tr> <tr><td>14. まとめ③</td><td></td></tr> <tr><td>15. まとめ・期末試験</td><td></td></tr> </table>			1 頭痛	492-496	2 痙攣	497-502	3 運動麻痺	503-506	4 めまい	507-510	5 喀血	516-518	6 まとめ①		7 胸痛	522-525	8 動悸	526-528	9 腹痛	529-533	10. まとめ②		11. 吐血・下血	534-536	12. 腰部痛・背部痛	537-539	13. 体温上昇	540-544	14. まとめ③		15. まとめ・期末試験	
1 頭痛	492-496																																
2 痙攣	497-502																																
3 運動麻痺	503-506																																
4 めまい	507-510																																
5 喀血	516-518																																
6 まとめ①																																	
7 胸痛	522-525																																
8 動悸	526-528																																
9 腹痛	529-533																																
10. まとめ②																																	
11. 吐血・下血	534-536																																
12. 腰部痛・背部痛	537-539																																
13. 体温上昇	540-544																																
14. まとめ③																																	
15. まとめ・期末試験																																	
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)492-510、522-544																																
参考書																																	
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。																																
備考	<p>補足授業の必要がある場合は、シミュレーション実習Ⅱで行う。</p> <p>授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。</p> <p>居眠り注意3回で欠席1とする。</p> <p>詳細は「学生便覧」を参照のこと。</p>																																

開講年度	令和5年度	開講期間	前期																
科目名	救急症候・病態生理学特論 I																		
担当教員	竹本 浩久																		
学年	2年	学科	救急救命																
単位数	2単位	時間数	30(15)時間																
学習目標	1年次に履修した救急症候・病態生理学 I、II、IIIについて、理解を深め説明することができる。																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 呼吸不全 特論</td> <td>454-462</td> </tr> <tr> <td>2. 呼吸困難 特論</td> <td>511-515</td> </tr> <tr> <td>3. 心不全 特論</td> <td>458-462</td> </tr> <tr> <td>4. ショック 特論</td> <td>463-469</td> </tr> <tr> <td>5. 重症脳障害 特論</td> <td>470-476</td> </tr> <tr> <td>6. 意識障害 特論</td> <td>488-491</td> </tr> <tr> <td>7. 心肺停止 特論</td> <td>477-485</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ 期末試験</td> <td></td> </tr> </table>			1. 呼吸不全 特論	454-462	2. 呼吸困難 特論	511-515	3. 心不全 特論	458-462	4. ショック 特論	463-469	5. 重症脳障害 特論	470-476	6. 意識障害 特論	488-491	7. 心肺停止 特論	477-485	8. まとめ 期末試験	
1. 呼吸不全 特論	454-462																		
2. 呼吸困難 特論	511-515																		
3. 心不全 特論	458-462																		
4. ショック 特論	463-469																		
5. 重症脳障害 特論	470-476																		
6. 意識障害 特論	488-491																		
7. 心肺停止 特論	477-485																		
8. まとめ 期末試験																			
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)454-485, 488-491, 511-515																		
参考書																			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。																		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。																		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期																
科目名	小児救急疾患																		
担当教員	大治 広美																		
学年	2年	学科	救急救命																
単位数	1単位	時間数	15時間																
学習目標	小児救急疾患において、救急救命士に必要な基礎知識(病態、症候、診断、治療法)について理解し説明できる。																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 小児に特有な疾患 基礎知識</td> <td>644-646</td> </tr> <tr> <td>2. 観察と判断①</td> <td>646-647</td> </tr> <tr> <td>3. 観察と判断②</td> <td>648-649</td> </tr> <tr> <td>4. 小児疾患①</td> <td>649-650</td> </tr> <tr> <td>5. 小児疾患②</td> <td>650-653</td> </tr> <tr> <td>6. 小児疾患③</td> <td>653-654</td> </tr> <tr> <td>7. 小児疾患④</td> <td>654-657</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ 期末試験</td> <td></td> </tr> </table>			1. 小児に特有な疾患 基礎知識	644-646	2. 観察と判断①	646-647	3. 観察と判断②	648-649	4. 小児疾患①	649-650	5. 小児疾患②	650-653	6. 小児疾患③	653-654	7. 小児疾患④	654-657	8. まとめ 期末試験	
1. 小児に特有な疾患 基礎知識	644-646																		
2. 観察と判断①	646-647																		
3. 観察と判断②	648-649																		
4. 小児疾患①	649-650																		
5. 小児疾患②	650-653																		
6. 小児疾患③	653-654																		
7. 小児疾患④	654-657																		
8. まとめ 期末試験																			
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)644-657																		
参考書																			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。																		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。																		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期																
科目名	高齢者・整形外科系疾患																		
担当教員	大治 広美																		
学年	2年	学科	救急救命																
単位数	1単位	時間数	15時間																
学習目標	高齢者に特有な疾患および筋・骨格、皮膚系の代表的な疾患について、救急救命士に必要な病態、症候、診断、治療法を理解し説明できる。																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 筋・骨格系疾患総論・脊椎疾患</td> <td>622-625</td> </tr> <tr> <td>2. 関節疾患・筋疾患</td> <td>625-626</td> </tr> <tr> <td>3. 皮膚系疾患</td> <td>627-629</td> </tr> <tr> <td>4. 中間 まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 高齢者に特有な疾患①</td> <td>658-659</td> </tr> <tr> <td>6. 高齢者に特有な疾患②</td> <td>660-662</td> </tr> <tr> <td>7. 高齢者に特有な疾患③</td> <td>662-664</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ 期末試験</td> <td></td> </tr> </table>			1. 筋・骨格系疾患総論・脊椎疾患	622-625	2. 関節疾患・筋疾患	625-626	3. 皮膚系疾患	627-629	4. 中間 まとめ		5. 高齢者に特有な疾患①	658-659	6. 高齢者に特有な疾患②	660-662	7. 高齢者に特有な疾患③	662-664	8. まとめ 期末試験	
1. 筋・骨格系疾患総論・脊椎疾患	622-625																		
2. 関節疾患・筋疾患	625-626																		
3. 皮膚系疾患	627-629																		
4. 中間 まとめ																			
5. 高齢者に特有な疾患①	658-659																		
6. 高齢者に特有な疾患②	660-662																		
7. 高齢者に特有な疾患③	662-664																		
8. まとめ 期末試験																			
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)622-629,658-664																		
参考書																			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。																		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。																		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	婦人科救急		
担当教員	友近 真紀子		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	産婦人科領域の特殊性と救急処置法について理解し、妊娠・分娩の救急処置法を習得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩の基礎学と解剖学 2. 妊娠・分娩と救急疾患① 3. 妊娠・分娩と救急疾患② 4. 妊娠・分娩と救急疾患③ 5. 分娩・介助①(演習) 6. 分娩・介助②(演習) 7. 妊娠・分娩 総論 8. まとめ 		
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)		
参考書	<p>病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科(メディックメディア)</p> <p>病気がみえる vol.10 産科(メディックメディア)</p> <p>病気がみえる vol.15 小児科(メディックメディア)</p> <p>日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト 第4版</p>		
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、提出課題、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。居眠り注意3回で欠席1とする。詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期																
科目名	精神障害																		
担当教員	山岸 英雄																		
学年	2年	学科	救急救命																
単位数	1単位	時間数	15時間																
学習目標	救急救命士に必要な精神科疾患の特殊性と救急処置法について理解し説明できる。																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 精神障害 総論①</td> <td>676-678</td> </tr> <tr> <td>2. 精神障害 総論②</td> <td>678-680</td> </tr> <tr> <td>3. 各種障害①</td> <td>680-681</td> </tr> <tr> <td>4. 各種障害②</td> <td>681-682</td> </tr> <tr> <td>5. 各種障害③</td> <td>682-683</td> </tr> <tr> <td>6. 各種障害④</td> <td>683-685</td> </tr> <tr> <td>7. 各種障害⑤</td> <td>685-686</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ 期末試験</td> <td></td> </tr> </table>			1. 精神障害 総論①	676-678	2. 精神障害 総論②	678-680	3. 各種障害①	680-681	4. 各種障害②	681-682	5. 各種障害③	682-683	6. 各種障害④	683-685	7. 各種障害⑤	685-686	8. まとめ 期末試験	
1. 精神障害 総論①	676-678																		
2. 精神障害 総論②	678-680																		
3. 各種障害①	680-681																		
4. 各種障害②	681-682																		
5. 各種障害③	682-683																		
6. 各種障害④	683-685																		
7. 各種障害⑤	685-686																		
8. まとめ 期末試験																			
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)676-686																		
参考書																			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。																		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。																		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期																
科目名	疾病救急医学特論 I																		
担当教員	竹本 浩久																		
学年	2年	学科	救急救命																
単位数	2単位	時間数	30(15)時間																
学習目標	救急救命士に必要な各種疾患における病態、症候、診断、救急処置等について理解を深め臨床実習に備える。																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 神経系疾患</td> <td>546-557</td> </tr> <tr> <td>2. 呼吸系疾患</td> <td>558-566</td> </tr> <tr> <td>3. 循環系疾患</td> <td>567-586</td> </tr> <tr> <td>4. 消化系疾患</td> <td>587-596</td> </tr> <tr> <td>5. 泌尿・生殖系疾患</td> <td>597-603</td> </tr> <tr> <td>6. 代謝・内分泌・栄養系疾患</td> <td>604-616</td> </tr> <tr> <td>7. 血液・免疫系疾患</td> <td>617-621</td> </tr> <tr> <td>8. まとめと期末試験</td> <td></td> </tr> </table>			1. 神経系疾患	546-557	2. 呼吸系疾患	558-566	3. 循環系疾患	567-586	4. 消化系疾患	587-596	5. 泌尿・生殖系疾患	597-603	6. 代謝・内分泌・栄養系疾患	604-616	7. 血液・免疫系疾患	617-621	8. まとめと期末試験	
1. 神経系疾患	546-557																		
2. 呼吸系疾患	558-566																		
3. 循環系疾患	567-586																		
4. 消化系疾患	587-596																		
5. 泌尿・生殖系疾患	597-603																		
6. 代謝・内分泌・栄養系疾患	604-616																		
7. 血液・免疫系疾患	617-621																		
8. まとめと期末試験																			
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)546-621																		
参考書																			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。																		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。																		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期																
科目名	外傷救急医学 I																		
担当教員	山岸 英雄																		
学年	2年	学科	救急救命																
単位数	1単位	時間数	15時間																
学習目標	<p>外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解する。 救急救命士に必要な観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に修得する。</p>																		
授業計画	<table> <tr> <td>1. 外傷総論</td> <td>688-690</td> </tr> <tr> <td>2. 受傷機転</td> <td>691-694</td> </tr> <tr> <td>3. 外傷の分類</td> <td>694-697</td> </tr> <tr> <td>4. 受傷形態①</td> <td>697-699</td> </tr> <tr> <td>5. 受傷形態②</td> <td>699-701</td> </tr> <tr> <td>6. 外傷の病態生理</td> <td>702-707</td> </tr> <tr> <td>7. 外傷の現場活動</td> <td>708-714</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ 期末試験</td> <td></td> </tr> </table>			1. 外傷総論	688-690	2. 受傷機転	691-694	3. 外傷の分類	694-697	4. 受傷形態①	697-699	5. 受傷形態②	699-701	6. 外傷の病態生理	702-707	7. 外傷の現場活動	708-714	8. まとめ 期末試験	
1. 外傷総論	688-690																		
2. 受傷機転	691-694																		
3. 外傷の分類	694-697																		
4. 受傷形態①	697-699																		
5. 受傷形態②	699-701																		
6. 外傷の病態生理	702-707																		
7. 外傷の現場活動	708-714																		
8. まとめ 期末試験																			
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)688-714																		
参考書																			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。																		
備考	<p>補足の必要がある場合はシミュレーション実習Ⅱで行う。 出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。</p>																		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期																
科目名	外傷救急医学Ⅱ																		
担当教員	山岸 英雄																		
学年	2年	学科	救急救命																
単位数	1単位	時間数	15時間																
学習目標	各領域における外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解する。 救急救命士に必要な観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に修得する。																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 頭部外傷</td> <td>714-721</td> </tr> <tr> <td>2. 顔面・頸部外傷</td> <td>722-726</td> </tr> <tr> <td>3. 脊椎・脊髄外傷</td> <td>727-732</td> </tr> <tr> <td>4. 胸部外傷</td> <td>733-738</td> </tr> <tr> <td>5. 腹部・骨盤外傷</td> <td>739-746</td> </tr> <tr> <td>6. 四肢外傷・皮膚・軟部組織外傷</td> <td>747-754</td> </tr> <tr> <td>7. 小児・高齢者・妊婦の外傷</td> <td>755-759</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ 期末試験</td> <td></td> </tr> </table>			1. 頭部外傷	714-721	2. 顔面・頸部外傷	722-726	3. 脊椎・脊髄外傷	727-732	4. 胸部外傷	733-738	5. 腹部・骨盤外傷	739-746	6. 四肢外傷・皮膚・軟部組織外傷	747-754	7. 小児・高齢者・妊婦の外傷	755-759	8. まとめ 期末試験	
1. 頭部外傷	714-721																		
2. 顔面・頸部外傷	722-726																		
3. 脊椎・脊髄外傷	727-732																		
4. 胸部外傷	733-738																		
5. 腹部・骨盤外傷	739-746																		
6. 四肢外傷・皮膚・軟部組織外傷	747-754																		
7. 小児・高齢者・妊婦の外傷	755-759																		
8. まとめ 期末試験																			
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)715-759																		
参考書																			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。																		
備考	補足の必要がある場合はシミュレーション実習Ⅱで行う。 出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。																		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期																
科目名	外傷救急医学Ⅲ																		
担当教員	山岸 英雄																		
学年	2年	学科	救急救命																
単位数	1単位	時間数	15時間																
学習目標	特殊な外傷領域における受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解する。救急救命士に必要な観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に修得する。																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 熱傷・化学損傷①</td> <td>760-764</td> </tr> <tr> <td>2. 熱傷・化学損傷②</td> <td>764-765</td> </tr> <tr> <td>3. 熱傷・化学損傷③</td> <td>766-771</td> </tr> <tr> <td>4. 電撃症・雷撃症</td> <td>772-777</td> </tr> <tr> <td>5. 縊頸・絞頸・刺咬傷</td> <td>778-785</td> </tr> <tr> <td>6. 外傷救急総論①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 外傷救急総論②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. まとめ 期末試験</td> <td></td> </tr> </table>			1. 熱傷・化学損傷①	760-764	2. 熱傷・化学損傷②	764-765	3. 熱傷・化学損傷③	766-771	4. 電撃症・雷撃症	772-777	5. 縊頸・絞頸・刺咬傷	778-785	6. 外傷救急総論①		7. 外傷救急総論②		8. まとめ 期末試験	
1. 熱傷・化学損傷①	760-764																		
2. 熱傷・化学損傷②	764-765																		
3. 熱傷・化学損傷③	766-771																		
4. 電撃症・雷撃症	772-777																		
5. 縊頸・絞頸・刺咬傷	778-785																		
6. 外傷救急総論①																			
7. 外傷救急総論②																			
8. まとめ 期末試験																			
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)760-785																		
参考書																			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。																		
備考	<p>補足の必要がある場合はシミュレーション実習Ⅱで行う。</p> <p>出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。</p> <p>居眠り注意3回で欠席1とする。</p> <p>詳細は「学生便覧」を参照のこと。</p>																		

開講年度	令和5年度	開講期間	前期
科目名	環境障害・急性中毒		
担当教員	竹本 浩久		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	<p>環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解する。</p> <p>観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。</p>		
授業計画	<p>1. 中毒総論① 788-795</p> <p>2. 中毒総論②</p> <p>3. 中毒各論① 796-807</p> <p>4. 中毒各論②</p> <p>5. 中間 まとめ</p> <p>6. 異物・溺水① 808-814</p> <p>7. 異物・溺水②</p> <p>8. 熱中症① 815-819</p> <p>熱中症②</p> <p>低体温① 819-823</p> <p>低体温②</p> <p>中間 まとめ</p> <p>その他の環境障害① 833-835</p> <p>その他の環境障害② 835-839</p> <p>まとめ・期末試験</p>		
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)788-823,833-839		
参考書			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	<p>出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。</p> <p>居眠り注意3回で欠席1とする。</p> <p>詳細は「学生便覧」を参照のこと。</p>		

開講年度	令和5年度	開講期間	通年(前期)																																																												
科目名	シミュレーション実習Ⅱ																																																														
担当教員	曾田 修治・山岸 英雄																																																														
学年	2年	学科	救急救命																																																												
単位数	5単位	時間数	225(132)時間																																																												
学習目標	気管挿管・薬剤投与などを含む救急救命士に必要な救急救命処置の知識・技術を修得する。																																																														
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 実習前教育オリエンテーション①</td> <td>21. 救急救命処置⑱</td> <td>41. 救急救命活動⑥</td> </tr> <tr> <td>2. 実習前教育オリエンテーション②</td> <td>22. 救急救命処置⑳</td> <td>42. 救急救命活動⑦</td> </tr> <tr> <td>3. 救急救命処置①</td> <td>23. 救急救命処置㉑</td> <td>43. 救急救命活動⑧</td> </tr> <tr> <td>4. 救急救命処置②</td> <td>24. 救急救命処置㉒</td> <td>44. 症例検討</td> </tr> <tr> <td>5. 救急救命処置③</td> <td>25. 救急救命処置㉓</td> <td>45. 救急救命活動⑨</td> </tr> <tr> <td>6. 救急救命処置④</td> <td>26. 救急救命処置㉔</td> <td>46. 救急救命活動⑩</td> </tr> <tr> <td>7. 救急救命処置⑤</td> <td>27. 救急救命処置㉕</td> <td>47. 救急救命活動⑪</td> </tr> <tr> <td>8. 救急救命処置⑥</td> <td>28. 救急救命処置㉖</td> <td>48. 救急救命活動⑫</td> </tr> <tr> <td>9. 救急救命処置⑦</td> <td>29. 救急救命処置㉗</td> <td>49. 救急救命活動⑬</td> </tr> <tr> <td>10. 救急救命処置⑧</td> <td>30. 救急救命処置㉘</td> <td>50. 症例検討</td> </tr> <tr> <td>11. 救急救命処置⑨</td> <td>31. 救急救命処置㉙</td> <td>51. 救急救命活動⑭</td> </tr> <tr> <td>12. 救急救命処置⑩</td> <td>32. 救急救命処置㉚</td> <td>52. 救急救命活動⑮</td> </tr> <tr> <td>13. 救急救命処置⑪</td> <td>33. 救急救命処置㉛</td> <td>53. 救急救命活動⑯</td> </tr> <tr> <td>14. 救急救命処置⑫</td> <td>34. 救急救命処置㉜</td> <td>54. 救急救命活動⑰</td> </tr> <tr> <td>15. 救急救命処置⑬</td> <td>35. 救急救命活動①</td> <td>55. 救急救命活動⑱</td> </tr> <tr> <td>16. 救急救命処置⑭</td> <td>36. 救急救命活動②</td> <td>56. 症例検討</td> </tr> <tr> <td>17. 救急救命処置⑮</td> <td>37. 救急救命活動③</td> <td>57. 救急救命活動⑲</td> </tr> <tr> <td>18. 救急救命処置⑯</td> <td>38. 症例検討</td> <td>58. 救急救命活動⑳</td> </tr> <tr> <td>19. 救急救命処置⑰</td> <td>39. 救急救命活動④</td> <td>59. 救急救命活動㉑</td> </tr> <tr> <td>20. 救急救命処置⑱</td> <td>40. 救急救命活動⑤</td> <td>60. 救急救命活動㉒</td> </tr> </table>			1. 実習前教育オリエンテーション①	21. 救急救命処置⑱	41. 救急救命活動⑥	2. 実習前教育オリエンテーション②	22. 救急救命処置⑳	42. 救急救命活動⑦	3. 救急救命処置①	23. 救急救命処置㉑	43. 救急救命活動⑧	4. 救急救命処置②	24. 救急救命処置㉒	44. 症例検討	5. 救急救命処置③	25. 救急救命処置㉓	45. 救急救命活動⑨	6. 救急救命処置④	26. 救急救命処置㉔	46. 救急救命活動⑩	7. 救急救命処置⑤	27. 救急救命処置㉕	47. 救急救命活動⑪	8. 救急救命処置⑥	28. 救急救命処置㉖	48. 救急救命活動⑫	9. 救急救命処置⑦	29. 救急救命処置㉗	49. 救急救命活動⑬	10. 救急救命処置⑧	30. 救急救命処置㉘	50. 症例検討	11. 救急救命処置⑨	31. 救急救命処置㉙	51. 救急救命活動⑭	12. 救急救命処置⑩	32. 救急救命処置㉚	52. 救急救命活動⑮	13. 救急救命処置⑪	33. 救急救命処置㉛	53. 救急救命活動⑯	14. 救急救命処置⑫	34. 救急救命処置㉜	54. 救急救命活動⑰	15. 救急救命処置⑬	35. 救急救命活動①	55. 救急救命活動⑱	16. 救急救命処置⑭	36. 救急救命活動②	56. 症例検討	17. 救急救命処置⑮	37. 救急救命活動③	57. 救急救命活動⑲	18. 救急救命処置⑯	38. 症例検討	58. 救急救命活動⑳	19. 救急救命処置⑰	39. 救急救命活動④	59. 救急救命活動㉑	20. 救急救命処置⑱	40. 救急救命活動⑤	60. 救急救命活動㉒
1. 実習前教育オリエンテーション①	21. 救急救命処置⑱	41. 救急救命活動⑥																																																													
2. 実習前教育オリエンテーション②	22. 救急救命処置⑳	42. 救急救命活動⑦																																																													
3. 救急救命処置①	23. 救急救命処置㉑	43. 救急救命活動⑧																																																													
4. 救急救命処置②	24. 救急救命処置㉒	44. 症例検討																																																													
5. 救急救命処置③	25. 救急救命処置㉓	45. 救急救命活動⑨																																																													
6. 救急救命処置④	26. 救急救命処置㉔	46. 救急救命活動⑩																																																													
7. 救急救命処置⑤	27. 救急救命処置㉕	47. 救急救命活動⑪																																																													
8. 救急救命処置⑥	28. 救急救命処置㉖	48. 救急救命活動⑫																																																													
9. 救急救命処置⑦	29. 救急救命処置㉗	49. 救急救命活動⑬																																																													
10. 救急救命処置⑧	30. 救急救命処置㉘	50. 症例検討																																																													
11. 救急救命処置⑨	31. 救急救命処置㉙	51. 救急救命活動⑭																																																													
12. 救急救命処置⑩	32. 救急救命処置㉚	52. 救急救命活動⑮																																																													
13. 救急救命処置⑪	33. 救急救命処置㉛	53. 救急救命活動⑯																																																													
14. 救急救命処置⑫	34. 救急救命処置㉜	54. 救急救命活動⑰																																																													
15. 救急救命処置⑬	35. 救急救命活動①	55. 救急救命活動⑱																																																													
16. 救急救命処置⑭	36. 救急救命活動②	56. 症例検討																																																													
17. 救急救命処置⑮	37. 救急救命活動③	57. 救急救命活動⑲																																																													
18. 救急救命処置⑯	38. 症例検討	58. 救急救命活動⑳																																																													
19. 救急救命処置⑰	39. 救急救命活動④	59. 救急救命活動㉑																																																													
20. 救急救命処置⑱	40. 救急救命活動⑤	60. 救急救命活動㉒																																																													
教科書	改訂10版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 341-368,383-395,409-415,436-447,449,708-714																																																														
参考書	国家試験問題集(状況設定問題)																																																														
評価方法	期末試験・実技評価の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等により総合的に評価する。																																																														
備考	授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 不適切な服装や髪型、毛染、ピアス、化粧等を認める場合、原則、欠席1とする。 体調不良等を理由とした頻回の見学・中断は欠席とする。(3見学で1欠席) 居眠り注意3回で欠席1とする。 「学生便覧」参照																																																														

開講年度	令和5年度	開講期間	通年(前期)
科目名	シミュレーション実習Ⅱ		
担当教員	曾田 修治 ・ 山岸 英雄		
学年	2年	学科	救急救命
単位数	5単位	時間数	225(132)時間
学習目標	救急救命士に必要な救急救命処置を修得する。 気管挿管・薬剤投与に関する基本的な知識・技術を修得する。		
授業計画	61 救急救命活動②③ 62 救急救命活動④ 63 効果測定 64 効果測定 65 効果測定 66 まとめ 期末試験		
教科書	改訂10版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 341-368,383-395,409-415,436-447,449,708-714		
参考書	国家試験問題集(状況設定問題)		
評価方法	期末試験・実技評価の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等により総合的に評価する。		
備考	授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 不適切な服装や髪型、毛染、ピアス、化粧等を認める場合、原則、欠席1とする。 体調不良等を理由とした頻回の見学・中断は欠席とする。(3見学で1欠席) 居眠り注意3回で欠席1とする。 「学生便覧」参照		

開講年度	令和5年度	開講期間	通年(前期)																																														
科目名	救急車同乗実習																																																
担当教員	曾田 修治																																																
学年	2年	学科	救急救命																																														
単位数	2単位	時間数	90(74)時間																																														
学習目標	学んだ知識・技術及び実習を通じて病院前救護活動の現状について理解を深める。 救急現場及び救急車内で基礎的な活動ができる。																																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 実習ガイダンス①</td> <td>24. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>2. 基礎訓練①</td> <td>25. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>3. 基礎訓練②</td> <td>26. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>4. 基礎訓練③</td> <td>27. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>5. 基礎訓練④</td> <td>28. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>6. 基礎訓練⑤</td> <td>29. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>7. 基礎訓練⑥</td> <td>30. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>8. 実習ガイダンス②</td> <td>31. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>9. 安全管理</td> <td>32. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>10. 想定訓練①</td> <td>33. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>11. 想定訓練②</td> <td>34. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>12. 想定訓練③</td> <td>35. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>13. 想定訓練④</td> <td>36. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>14. 想定訓練⑤</td> <td>37. 消防署実習</td> </tr> <tr> <td>15. 想定訓練⑥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16. 消防署実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17. 消防署実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>18. 消防署実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19. 消防署実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20. 消防署実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>21. 消防署実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>22. 消防署実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>23. 消防署実習</td> <td></td> </tr> </table>			1. 実習ガイダンス①	24. 消防署実習	2. 基礎訓練①	25. 消防署実習	3. 基礎訓練②	26. 消防署実習	4. 基礎訓練③	27. 消防署実習	5. 基礎訓練④	28. 消防署実習	6. 基礎訓練⑤	29. 消防署実習	7. 基礎訓練⑥	30. 消防署実習	8. 実習ガイダンス②	31. 消防署実習	9. 安全管理	32. 消防署実習	10. 想定訓練①	33. 消防署実習	11. 想定訓練②	34. 消防署実習	12. 想定訓練③	35. 消防署実習	13. 想定訓練④	36. 消防署実習	14. 想定訓練⑤	37. 消防署実習	15. 想定訓練⑥		16. 消防署実習		17. 消防署実習		18. 消防署実習		19. 消防署実習		20. 消防署実習		21. 消防署実習		22. 消防署実習		23. 消防署実習	
1. 実習ガイダンス①	24. 消防署実習																																																
2. 基礎訓練①	25. 消防署実習																																																
3. 基礎訓練②	26. 消防署実習																																																
4. 基礎訓練③	27. 消防署実習																																																
5. 基礎訓練④	28. 消防署実習																																																
6. 基礎訓練⑤	29. 消防署実習																																																
7. 基礎訓練⑥	30. 消防署実習																																																
8. 実習ガイダンス②	31. 消防署実習																																																
9. 安全管理	32. 消防署実習																																																
10. 想定訓練①	33. 消防署実習																																																
11. 想定訓練②	34. 消防署実習																																																
12. 想定訓練③	35. 消防署実習																																																
13. 想定訓練④	36. 消防署実習																																																
14. 想定訓練⑤	37. 消防署実習																																																
15. 想定訓練⑥																																																	
16. 消防署実習																																																	
17. 消防署実習																																																	
18. 消防署実習																																																	
19. 消防署実習																																																	
20. 消防署実習																																																	
21. 消防署実習																																																	
22. 消防署実習																																																	
23. 消防署実習																																																	
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)271-297 救急車同乗実習要項																																																
参考書																																																	
評価方法	後期にて通年の出席状況・授業態度(実習態度)、実習評価、実習日誌、結果発表の内容により総合的に評価する。																																																
備考	感染症の感染拡大又は大規模災害により実習地を変更する場合がある。 救急車同乗実習要項に反した場合は単位未認定とする。 実習先からの苦情等(事後発覚した苦情等含む)はいかなる理由であれ単位未認定とする。 学内での体調不良等を理由とした頻回の見学・中断は欠席とする。(3見学で1欠席)																																																